

本年度の目指す生徒の姿

- 学校のしくみを理解し、高校生活に展望が持てる生徒
- 学びの価値に気づいて、学びに真摯に向き合う生徒
- 夢や希望を抱き、その実現を目指す生徒

取組の視点

生徒

- 価値を与えて、気づきを促す
- 自己肯定感を醸成し、展望を拓く
- 安全安心な学習環境の確保

教職員

- 原点に戻る（ねらいの意識化・明確化）
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識

重点目標	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
学びのある授業	わかる面接指導(授業)を実践する。	生徒アンケートにより、「わかりやすい」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	・NHK高校講座の活用法を更に研究し、より充実させる。 ・添削の仕方の研修会を実施する。 ・校内公開授業の後に、教科内での授業研究会や通信制教員全体での授業研究会を実施する。	<p>○アンケート調査では、教育活動の全ての項目において、「よくあてはまる」・「ややあてはまる」との回答であり、本校の教育活動が評価されている。</p> <p>○次年度以降も進路講座などの取組の継続を期待する。</p> <p>【本校全体に関する評価委員の評価・感想】</p> <p>○職員が総力で取り組んでいる。保護者アンケートも学校に好意的である。</p> <p>○心に火をつけるというテーマで取り組んだことが良かった。</p> <p>○生徒が通うのが楽しいと言っているのを直接聞く機会があるが、学校で色々な仕掛けをしているということが分かった。</p> <p>○就学支援金が必要な生徒に十分に行き渡っていないということだが、改善が望まれる。</p>
	報告課題(レポート)の内容改善と添削指導の充実を図る。				
居がいのある学校生活	特別活動を通して、教師と生徒及び生徒相互における信頼感・連帯感の育成を図り、学校や集団への帰属意識を高める。	行事参加者のアンケートにより、「満足した」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	B	・生徒が参加しやすい、あるいは参加したくなるような行事内容にするとともに、行事の目的を前面に出して参加を呼びかける。	
進路や生き方につながる履修計画	進路講座の充実や複数回の体験活動を通して、生徒の進路実現に向けた適切な指導ができるようにする。	教員アンケートにより、「適切な指導ができた」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	・進路講座のやり方を見直し、生徒が自覚をもって進路学習に取り組めるようにする。 ・自分の進路を見通して適切な履修計画が立てられるよう指導する。	
困難な状況の生徒への支援	情報交換を通して、相談が必要と思われる生徒には相談室での相談を勧め、保護者との連携も深めながら生徒の不安の解消を目指す。	生徒アンケートにより、「適切な指導をしている」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	・機械的にでなく、今まで以上に柔軟に対応できる指導体制をつくる。 ・情報の管理を徹底つつ、教員間の情報交換の機会を増やし、保護者への連絡も密にすることで学校生活を充実させるようにする。	
開かれた学校、外部資源の活用	学校ホームページの充実を図る。	アクセス数が、月に10,000以上A、7,000以上B、7,000未満C	B	・学校ホームページを適時更新し、魅力ある通信制情報を広く発信することで、地域の人や本校受検生、そして生徒・保護者の本校に対する理解の深化を図る。 ・学報(「コレスポンド通信」)掲載記事をホームページに載せる。	
	家庭や地域に向けて積極的に情報発信を行う等、広報活動の充実を図る。	保護者アンケートにより、「情報が確実に届いている」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C			
安全安心な学習環境の確保	定例打合せ時の生徒に関する情報交換から、人間関係が心配される生徒については教員に注意を促し、いじめのない学校を目指す。	生徒アンケートにより、「適切な指導をしている」の割合が、70%以上A、60%以上B、60%未満C	A	・いじめが起こってからの情報交換ではなく、起こさないための情報交換や、起こった後の効果的な指導法等について研究し、その成果を指導の改善に役立てる。	